

公立大学法人島根県立大学
平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果

令和元年8月
島根県公立大学法人評価委員会

1 評価にあたって

公立大学法人島根県立大学の平成30年度の業務実績に関する評価については、「公立大学法人島根県立大学の各事業年度の業務実績評価（年度評価）実施要領」に基づき、以下のとおり実施した。

(1) 島根県公立大学法人評価委員会委員

	氏名	役職
委員長	服部 泰直	国立大学法人島根大学長
委員	渋川 あゆみ	助産師
委員	花田 紀美江	元松江市立女子高等学校長
委員	三島 明	公認会計士
委員	宮脇 和秀	(株)ミック代表取締役社長

(2) 評価の方法

- ① 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により実施した。
- ② 「全体評価」は、次に掲げる「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について評価を行った。
- ③ 「項目別評価」は、大学法人から提出された業務実績報告書を検証し、年度計画の記載事項毎に5段階(5～1)で評価するとともに、中期目標項目別にAA～Dの5段階で評価を行った。なお、「Ⅱ大学の教育研究等の質の向上」に関する項目については、5段階評価ではなく、進捗状況・成果を総合的に評価した。

[中期目標項目]

I	社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり
II	大学の教育研究等の質の向上
III	自主的、自律的な組織・運営体制の確立
IV	評価制度の充実及び情報公開の推進
V	その他業務運営に関する重要事項

[中期目標項目別の評価基準]（「Ⅱ大学の教育研究等の質の向上」に関する項目を除く）

評価	基準
AA	特筆すべき進捗状況にある (評点平均値 4.3～)
A	順調に進んでいる (評点平均値 3.5～4.2)
B	概ね順調 (評点平均値 2.7～3.4)
C	やや遅れている (評定平均値 1.9～2.6)
D	大幅な改善が必要 (評定平均値～1.8)

評点平均値：年度計画各項目を5点満点で評価し、中期目標項目毎に平均値を算出したもの。

2 全体評価

(1) 概要

島根県は、平成19年4月に地方独立行政法人法に基づく公立大学法人島根県立大学を設立した。そして、平成19年度から平成24年度までの第1期6年間に続き、平成25年度からの第2期6年間についても、島根県は大学が達成すべき目標（中期目標）を指示し、大学の取組を促したところである。

全国的に地方創生の取組が進められる中、地方公共団体が設置する公立大学には、これまで以上に地域課題の解決に向けた役割が期待されているとともに、地域や時代の要請に応え、特色ある、学生にとって魅力ある高等教育機関として発展し、地域へ人材を輩出していくことが求められている。

平成30年度の業務実績評価については、点数評価を行う項目の内1つの大項目がAA評価（「中期目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある」）、3つの大項目がA評価（「中期目標の達成に向けて順調に進んでいる」）であった。

(2) 評価の視点

当評価委員会が大学運営・教育研究について、評価に際して考慮した事項を視点別に掲げると、以下のとおりである。

○ 学生の入学

- ・ 大学の魅力・特色を伝える積極的な入試広報に取り組んだ結果、どの学部学科においても高い志願倍率を達成し、平成30年度設置の新学部「人間文化学部」においては、昨年の3倍を上回る4倍を超える志願倍率となり、運営は順調である。
- ・ 一方で、県内入学率は、浜田・出雲・松江（四大）キャンパスで前年度を下回っている。さらなる取組を期待する。

○ 学生の就職

- ・ 平成30年度卒業生の就職率は、浜田キャンパス97.4%、出雲キャンパス100%、松江キャンパス98.5%と昨年度に引き続き高い水準を維持した。
- ・ 県内就職率（就職希望者に占める県内就職者）については、浜田キャンパスにおいて、法人化後初めて県内就職率が2割を切った。当該卒業生の入学年次における県内入学生数が前年に比べ大幅に減少したことが原因と考えられ、県内入学率と県内就職率は相互に関連していることから、引き続き、地域の担い手となる人材の県内定着のため、さらなる取組の強化を期待する。

○ 地域貢献

- ・ 平成 27 年度に採択された「地（知）の拠点大学における地方創生推進事業（大学 COC+事業）」において、島根大学や松江工業高等専門学校等と連携し、島根の課題や解決策を学ぶ教育の充実を図るとともに、地域産業の活性化といった地域課題を解決するための研究、地域が求める人材の育成や地域への学習機会の提供など、地域貢献に取り組んだ。
- ・ 引き続き、地域の抱える課題や県立大学に対する地域のニーズを敏感に察知した上での取組の推進に期待する。

○ 国際交流

- ・ 新たな海外の大学との包括協定の締結や、学生の海外活動を支援する制度を充実するなど、国際的な教育環境を整備した。
- ・ 海外留学者数、海外研修、内閣府海外派遣事業等の国際交流参加者については、前年度より 26 名増の 191 名となるなど、年間目標 180 人を上回ったことから、取組に成果が見られる。今後も継続した取組に努められたい。

（3）総括

以上のことから、第 2 期中期目標期間の最終年である平成 30 年度の業務運営は、「中期目標の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

[今後に向けた留意点]

県立大学は、地域のニーズや社会情勢の変化に対して、柔軟に対応する必要がある。

島根県立大学は令和元年度より、第 3 期中期目標期間を迎えた。県が作成した第 3 期中期目標では、県立大学の目指すべき姿を「地域貢献・教育重視型大学」と位置づけ、地域に貢献する人材の育成・輩出や、地域が抱える諸課題を解決するための研究及び教育を重視するなどの目標を示している。

第 3 期中期目標期間においては、理事長・学長のリーダーシップの下、県内入学者確保に向けた入試制度の見直しや浜田キャンパスの学部改編などの大学が作成した中期計画に沿った大学改革を、機動的かつ戦略的に進められたい。

また、第 2 期中期目標期間中に遅れている点として挙げた項目で同期間中に十分に改善しきれなかった事柄については、第 3 期中期目標期間において引き続き改善に取り組まれたい。

3 項目別評価

I 社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり

(1) 評価結果と判断理由

- 計画項目の集計結果では、AA評価（特筆すべき進捗状況にある）である。
 - ・ 社会情勢の変化や地域のニーズに対応するための第3期中期計画が予定通り策定されるとともに、大学の新たな体制・組織づくりへの取組が認められることから、中期目標の達成に向けて順調に進んでいると認められる。
- 以上により、中期目標項目評価としては、AA評価（特筆すべき進捗状況にある）と評価する。

AA	特筆すべき進捗状況にある	評点平均値 4.50
----	--------------	------------

(2) 実施状況

- 全学
 - ・ 島根県が策定した第3期中期目標に対応する中期計画を、大学改革本部における検討、理事会での審議等を経て作成し、平成31年3月8日に県の認可を受けた。
- 浜田キャンパス
 - ・ 地域課題研究に取り組み、地域貢献を推進していくため、「しまね地域研究センター」（平成31年4月1日設置）の設置に向けた準備を行った。
 - ・ 「総合政策学部」を国際系と地域系の2学部にも再編する基本方針を策定した。
- 出雲キャンパス・松江キャンパス
 - ・ 平成30年4月1日に新設された看護栄養学部、人間文化学部及び短期大学部は高い志願倍率を達成し計画通りのスタートを切ることができ、年度を通した運営も円滑に実施することができた。

II 大学の教育研究等の質の向上

(1) 高い知性と豊かな人間性を育み、社会に役立つ人材を輩出する大学

(評価の視点)

- ・ 質の高い教育の提供や学生に対するきめ細やかな支援がなされ、幅広い教養、知識、課題発見・解決能力、変貌する経済・社会への対応力を有した人材を育成できているか。

(特筆すべき点 (注目される点))

【アドミッション】

○ 全学

- ・ オープンキャンパス、高校での大学説明会、学生による母校（高校）訪問や様々な広報媒体を組み合わせた広報といった県内外への戦略的な広報を重点的に行った結果、全学において入学定員充足率 105.5%を達成するとともに、新学部である人間文化学部では4倍を超える志願倍率（昨年度3倍）であった。

○ 浜田キャンパス

- ・ 大学見学について、昨年度を上回る 306 名（昨年度 284 名）を受け入れるとともに、受験生のニーズに応える自己推薦入試対策として「自己推薦入試受験体験」を開催するなど、積極的な入試広報に努めた。

【キャリア】

○ 全学

- ・ 3キャンパスとも、昨年に引き続き高い就職率を維持した。
(浜田 97.4%、出雲 100%、松江 98.5%)

○ 浜田キャンパス

- ・ 公務員受験対策「公僕学舎」について、小論文・集団面接講座、公務職場研究ワークなど新たなプログラムを開設し、将来、行政職員となった時をイメージした、より実践的な試験対策を実施した。
- ・ 学生の主体的なキャリア形成を目指し、大学が指定する各種資格の合格者に対する 81 件の資格取得助成を行った。

○ 出雲キャンパス

- ・ 国家試験の合格率は看護師が 96.5% (全国平均 89.3%)、保健師が 93.5% (81.8%) であり、助産師は 100%を達成し、いずれも高水準の合格率だった。
- ・ 卒業生や修了生の離職防止のための相談窓口設置や、卒業生や修了生から在校生への就職勧奨等の、積極的な PR を行った。

○ 松江キャンパス

- ・ 栄養士資格取得 100%、保育士資格及び幼稚園教諭免許の併有率 96%であり、いずれも目標の 90%を達成した。
- ・ 総合文化学科で平成 30 年度よりインターンシップを単位化、20 名が受講し、社会や企業等に対する理解を深める取組を実施した。

【その他教育・学生支援に関する事項】

○ 全学

- ・ 学内奨学金について、受験生に対しては大学案内や選抜要項への記載、オープンキャンパスでの説明会で積極的に情報提供し、在学生に対しては年度当初のオリエンテーション等で広く周知した。

○ 出雲キャンパス

- ・ 学生が抱える様々な問題に対して気軽に相談ができるよう、チューター制を継続し、保健管理センターや関係部門と連携を図りながら支援を行った結果、保健室での学生相談数は H30 年度 4～5 月累計 183 名 (H29 年度 4～5 月累計 112 名) と増加しており、環境整備が功を奏している。

(遅れている点 (課題がある点))

【FD の取組】

○ 浜田キャンパス

- ・ 昨年に引き続き、学生アンケート回答率と教員フィードバック提出率が、出雲キャンパスや松江キャンパスと比較して低くなっている。スマートフォンで容易にアンケート回答できるようなシステム改修する、QRコードを学内に掲示するなどの取組のなかで、今後、新システムの操作方法などの利便性が高いことをいっそう学内に浸透させ、回答率や提出率を高められたい。

FD (ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development))

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称

- ・ 県内就職率向上に向け、ジョブカフェしまね等と連携して、県内の企業・社会人と学生とが交流できる機会を設けた。参加した学生の満足度はかなり高いが、参加する学生の人数が少なかった。各機関において類似の企業見学等バスツアーが同時期に開催され、申込みが分散されていることから、いくつかのバスツアー等のイベントを集約する等により、効率化を図られたい。

(参考)

DEEP 石見バスツアー 3 社、11 名

ワークカフェ (企業編) 3 回 9 社、27 名

ワークカフェ (公務編) 6 回 18 団体、66 名

ナイトワークカフェ 2 回 9 社、22 名

インターンシップフェア 12 社、19 名

(2) 地域に根ざし、地域に貢献する大学

(評価の視点)

- ・ 地域に根ざした大学として、積極的に地域に関与する姿勢を持ち、地域課題研究の推進や、地域の多様な学習ニーズへの対応など地域に貢献する大学を目指しているか。
- ・ 公立大学として、地域の求める人材を育成し、輩出しているか。

(特筆すべき点 (注目される点))

○ 全学

- ・ 平成 25 年度に文部科学省から採択を受けた「地 (知) の拠点整備事業 (大学 COC 事業)」において、「しまね地域マイスター」制度を創設している。この制度は、県立大学独自の制度であり、必修科目「しまね地域共生学入門」をはじめ、地域共生演習 (ゼミ) の受講、卒業研究提出までの定期的な報告会などを通じて、4 年間かけて地域課題解決の実践力ある人材を育成するものである。

平成 30 年度は本制度初めての卒業生となる 4 年次生 8 名が「しまね地域マイスター」の認定を受けることができ、地域の課題解決能力・実践力を持った地域に貢献する人材を輩出した。

また、松江キャンパスの新学部においても、本制度の運用を開始した。

- ・ 平成 27 年度に文部科学省に採択された「地 (知) の拠点大学における地方創生推進事業 (大学 COC+事業)」の中で、島根大学や産業界と連携して実施する「しまね大交流会」に浜田、松江の各キャンパスから、それぞれ、115 名、99 名の学生が参加した。

各キャンパスと調整し、大学 COC+事業に向けた人材育成の体制を整えた。

「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」

文部科学省が国内の大学を対象として、「自治体と連携しながら、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学」を支援するために、平成 25 年度より開始された事業

「地（知）の拠点大学における地方創生推進事業（大学 COC+事業）」

大学 COC 事業を発展させ、平成 27 年度から大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的とする事業

- ・ 「しまね協働教育パートナーシップ推進協議会」を開催し、地域協働による人材育成研修会等の企画について協議を行った。さらに、新たな試みとして登録団体の魅力を紹介する学生向け冊子を作成し、キャリア教育等に活用した。また、登録団体対象の研修会やインターンシップフェア等を実施し、昨年以上に学生と登録団体との接点を拡大し、各校で取り組む地域志向型キャリア教育との連動が進展した。引き続き、絶えず変化する地域が抱える課題や県立大学に対する地域のニーズを敏感に察知した上で、地域貢献を重視した大学運営を期待する。

○ 浜田キャンパス

- ・ 自治体との共同研究については、浜田市 5 件、益田市 4 件を実施したことに加え、新たに島根あさひ社会復帰促進センターとの共同研究 1 件や島根県西部県民センター学生石見地域研究 5 件、島根県水産技術センター 1 件にも取り組んだ。

○ 出雲キャンパス

- ・ 教員に公開講座登録カードの提出を求め、出雲キャンパス公開講座を 12 講座（受講者数：延べ 783 名）実施した。また、出雲キャンパスサテライトキャンパスにおいて、市民を対象に、前期後期で計 26 講座（受講者数：延べ 456 名）実施した。

○ 松江キャンパス

- ・ 松江商業高校、湖南中学校、乃木小学校、忌部小学校、忌部幼稚園や幼保園のぎと連携協定を結び、初等・中等教育側、大学教育側双方にとって、教育的成果のある事業を継続実施し、教育機関連携を固めた。

- ・ おはなしレストラン・ライブラリーについては、児童に対する読み聞かせイベントを開催し、また、一般の方が利用しやすいように行事ごとに展示の変更を行い、絵本、紙芝居など蔵書の充実も計画的に行った。

(遅れている点(課題がある点))

○ 浜田キャンパス

- ・ 依然として県内入学率が他キャンパスと比較して低いこと、また、県内就職率が法人化後初めて2割を切った。当該卒業生の入学年次における県内入学生の数が前年に比べ大幅に減少したことが原因と考えられ、県内入学率と県内就職率は相互に関連していることから、県内入学者数の確保等のさらなる取組が必要である。

(3) 北東アジアをはじめとする国際的な教育研究を推進する大学

(評価の視点)

- ・ 北東アジアをはじめとする国際的な教育研究を推進し、国際的にも活躍できる人材育成を進めているか。
- ・ 外国の大学との学術ネットワークの形成や留学生の派遣交流が積極的に行われているか。

(特筆すべき点 (注目される点))

○ 全学

- ・ 海外留学者数、海外研修、内閣府海外派遣事業等の参加者数について、年間 191 人と前年度 (165 人) 及び今年度の目標 (180 人) を上回り、国際交流推進体制の整備の効果が現れてきた。
- ・ 全学合同事業のグローバルドリームハントや外務省の対日理解促進交流プログラム「カケハシプロジェクト」の派遣学生を全学で募集し、合同事前研修にて派遣学生相互の結束を図るなど、3 キャンパスの連携体制を強化した。

○ 浜田キャンパス

- ・ 「異文化理解研修ハンドブック」を作成し、1、2 年生全員に配布し、より多くの学生が海外短期研修プログラムに参加できるよう周知した。

○ 出雲キャンパス

- ・ 前年度研修参加者の研修成果を共有するための報告会を開催した。その際に奨学金等の支援制度を周知するとともに、研修前後のオリエンテーション、報告会等を通じ、参加の意義を浸透させ、平成 30 年度の異文化研修参加者は、43 名へ増加 (平成 29 年度 38 名) するなど、海外交流事業参加者の実績増につなげた。

○ 松江キャンパス

- ・ 授業での海外短期研修や単位取得に関わらない自主参加の研修への参加促進を行った結果、サマープログラム (授業) に 25 名、台中科技大学短期研修 (課外) に 1 名、県主催の海外理解講座 (課外) に 3 名が参加し、これらの参加実績を学内報告会、ポスター掲示やホームページの活用により学内外に周知した。

Ⅲ 自主的、自律的な組織・運営体制の確立

(1) 評価結果と判断理由

- 計画項目の集計結果では、A評価（順調に進んでいる）である。
 - ・ 研究に関する外部資金獲得のための取組を進めたほか、事務事業の見直しによる点検を実施し、課題の検討や整理の結果を予算編成に反映させるなど、中期目標の達成に向けて順調に進んでいると認められる。
- 以上により、中期目標項目評価としては、A評価（順調に進んでいる）と評価する。

A	順調に進んでいる	評点平均値 4.08
---	----------	------------

(2) 実施状況

○ 全学

- ・ 科学研究費や受託研究、民間団体等助成金など、外部の研究資金獲得の取組について、科学研究費獲得のための研修会や学内に科学研究費アドバイザーを配置し、教員の相談体制を整備するなど取組を進めたことにより、科学研究費取組をはじめ、件数が年々増加している。

また、浜田キャンパスにおいては、資金総額の目標値を下回りはしたが、3キャンパス合計で資金総額の目標値を達成することができた。

研究領域の性質や特性にもよるところが大きく、一概に獲得資金の総額で成果を判断することはできないが、大学の安定的な運営に、自己財源の確保は欠かせないため、さらなる取組に期待したい。

科学研究費助成事業（科学研究費）

人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピアレビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うもの

IV 評価制度の充実及び情報公開の推進

(1) 評価結果と判断理由

- 計画項目の集計結果では、A評価（順調に進んでいる）である。
 - ・ 認証評価に向けた組織体制の強化や、学生や保護者等からの意見・要望をもとに制度を改善する取組も見られ、中期目標の達成に向けて順調に進んでいると認められる。
- 以上により、中期目標項目評価としては、A評価（順調に進んでいる）と評価する。

A	順調に進んでいる	評点平均値 4.14
---	----------	------------

(2) 実施状況

- 全学
 - ・ 大学評価（認証評価）については、短期大学部が公益財団法人大学基準協会の認証評価を受審し、努力課題、改善勧告はなく、評定のある基準項目は、すべて「A」評価を受けた。
 - ・ 認証評価で重視される内部質保証について、自己点検や評価の責任者として学長代行の設置や、IR室（入試や教育研究、就職などの情報を収集・分析・評価することにより、戦略的な大学運営を行う）の設置をはじめとした新組織の設置により、既存の組織体制を強化した。
 - ・ 保護者等からの要望等をふまえ、従来、紙による成績通知を行っていたが、「学生情報システム」による通知に変更し、学生保護者も閲覧できるようにしたことで、成績閲覧や大学から保護者に様々な情報提供を行うことができた。

V その他業務運営に関する重要事項

(1) 評価結果と判断理由

- 計画項目の集計結果では、A評価（順調に進んでいる）である。
 - ・ 積極的な広報・広聴活動、学生のボランティア活動やOB・OGとの交流など、地域や高校生といった関係方面に対して開かれた大学となる取組を進めており、総合的に中期目標の達成に向けて順調に進んでいると認められる。
- 以上により、中期目標項目評価としては、A評価（順調に進んでいる）と評価する。

A	順調に進んでいる	評点平均値 3.94
---	----------	------------

(2) 実施状況

- 全学
 - ・ ボランティア参加者数について、年間700人以上をめざし、ボランティア保険の加入者は全キャンパス合計1,056人であった。
- 浜田キャンパス・出雲キャンパス
 - ・ キャリア授業の中でOB・OGを招き、キャリア形成・就職活動に関する講演会の開催や、就職活動中の学生相談会を実施するなど、卒業生と協力・交流してより実践的なキャリア教育を実施した。
- 松江キャンパス
 - ・ 様々な広報媒体を組み合わせながら、特色ある入試広報を実施した結果、平成30年度に新設した「人間文化学部」においては、昨年度を超える4倍の志願倍率となった。

[項目別評価資料]

公立大学法人島根県立大学平成30年度業務実績評価 評点算定表

中期目標(大項目)	平成30年度計画評点			中期目標 項目別 評価結果	
	中期目標(中項目)	評点合計 (A)	計画項目数 (B)		評点平均値 (A)/(B)
	中期目標(小項目)				
I 社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり		27	6	4.50	AA
II 大学の教育研究等の質の向上	5段階評価を行わない項目				
III 自主的、自律的な組織・運営体制の確立		53	13	4.08	A
1 業務運営の改善及び効率化		25	6	4.17	
(1) 運営、組織体制の改善による効率的、合理的な経営		8	2	4.00	
(2) 人材管理の適正化		17	4	4.25	
2 財務内容の改善による経営基盤の強化		28	7	4.00	
(1) 自己財源の充実		20	5	4.00	
(2) 経費の抑制		4	1	4.00	
(3) 監査体制の充実		4	1	4.00	
IV 評価制度の充実及び情報公開の推進		29	7	4.14	A
1 評価制度の充実		21	5	4.20	
(1) 組織を対象とした評価制度		17	4	4.25	
(2) 個人を対象とした評価制度		4	1	4.00	
2 情報公開の推進		8	2	4.00	
V その他業務運営に関する重要事項		71	18	3.94	A
1 広報広聴活動の積極的な展開など		40	10	4.00	
(1) 戦略的な広報の実施		12	3	4.00	
(2) 大学支援組織との連携強化		16	4	4.00	
(3) 広聴活動の実施		12	3	4.00	
2 施設設備の維持、整備等の適切な実施		8	2	4.00	
3 安全管理対策の推進		7	2	3.50	
4 危機管理体制の確保		4	1	4.00	
5 人権の尊重		8	2	4.00	
6 環境マネジメントシステムの構築・推進		4	1	4.00	

評価	基準	
AA	特筆すべき進捗状況にある	(評点平均値 4.3~)
A	順調に進んでいる	(評点平均値 3.5~4.2)
B	概ね順調	(評点平均値 2.7~3.4)
C	やや遅れている	(評定平均値 1.9~2.6)
D	大幅な改善が必要	(評定平均値~1.8)

4 参考

(1) 学生確保の状況

① [入試志願倍率]

区分	H29 入試	H30 入試	H31 入試
浜田	5.07	5.42	3.79
出雲	3.60	3.57	2.53
松江(四)	—	3.14	4.13
松江(短)	2.41	3.98	3.18

② [入学者に占める県内者割合]

(単位：%)

区分	H29 入試	H30 入試	H31 入試
浜田	21.7	24.3	19.6
出雲	51.2	61.5	57.8
松江(四)	—	60.7	49.2
松江(短)	69.1	72.1	77.4

(2) 就職の状況

① [キャンパス別就職率]

(単位：%)

区分	H28	H29	H30
浜田	98.0	96.1	97.4
出雲	100.0	100.0	100.0
松江(短)	97.5	98.0	98.5

② [県内就職率(就職希望者に占める県内就職者)]

(単位：%)

区分	H28	H29	H30
浜田	23.0	31.8	19.6
出雲	51.2	49.4	48.5
松江(短)	69.7	69.1	68.5

※各数値は、大学院、別科を除く。

(3) FD (ファカルティ・ディベロップメント) の取組の状況

① [学生アンケート回答率]

(単位：%)

		H 2 8	H 2 9	H 3 0
浜田	春学期	4 1 . 4	4 4 . 7	3 5 . 0
	秋学期	3 4 . 6	3 8 . 3	3 0 . 5
	目標値	-	-	4 0 . 0
出雲	春学期	9 8 . 8	9 9 . 9	9 7 . 7
	秋学期	1 0 0 . 0	9 9 . 5	9 8 . 8
松江 (短)	春学期	7 7 . 0	8 3 . 7	6 5 . 4
	秋学期	6 5 . 1	5 8 . 3	6 1 . 8
松江 (四)	春学期	-	-	8 4 . 7
	秋学期	-	-	8 1 . 0

② [専任教員によるフィードバック提出率]

(単位：%)

		H 2 8	H 2 9	H 3 0
浜田	春学期	5 5 . 1	6 2 . 2	3 1 . 8
	秋学期	5 3 . 2	6 1 . 4	4 6 . 7
	目標値	-	-	6 0 . 0
出雲	春学期	1 0 0 . 0	1 0 0 . 0	1 0 0 . 0
	秋学期	1 0 0 . 0	1 0 0 . 0	1 0 0 . 0
松江 (短)	春学期	5 4 . 5	6 3 . 6	7 0 . 2
	秋学期	5 6 . 7	7 8 . 1	3 8 . 6
松江 (四)	春学期	-	-	8 4 . 6
	秋学期	-	-	4 4 . 8

(4) 海外交流の状況

交流協定締結大学等との交流事業参加者 (年間目標値 180人)

(単位:人)

区分	H27	H28	H29	H30
浜田	66	78	89	106
出雲	17	24	46	55
松江	28	45	30	30
計	111	147	165	191